

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270105473		
法人名	医療法人 昭和会		
事業所名	昭和会病院 グループホーム新地		
所在地	〒850-0842 長崎県長崎市新地町6番3号		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成22年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年12月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体が病院であり、グループホームにおいても看護師が1名24時間緊急連絡体制をとっている。事業所としては1ユニットで小さいが、入所者の方がゆったりと楽しく生活できるように、職員の工夫や努力により安心して日常生活を営むことが出来ている。グループホーム新地は、街中にあり環境に恵まれている為に、商店街への買い物や水辺の森公園や湊公園など美しい公園の散歩など楽しんでいる。また、隣接する湊公園や新地中華街では、ランタン祭り・おくんちやちびっこくんちなど催しも多く、出し物を見たり露店へ出かけたりと季節感を感じ、一人ひとりが楽しく生活している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

都市部にあり、更に商業施設、公園などの公共施設、観光地にも囲まれた町の中心に近い立地条件において、その地域性を楽しめる利点がある。季節ごとの祭りや催しの賑わいを、遠くまで足を延ばさずともホームのごく近辺や窓越しに感じられることは日常生活の中の活気や潤いともなっている。公共交通機関も利用しやすく、車でも利便性のいい場所であり、家族、知人の訪問も多い。母体が医療法人ということで、高齢化、重度化を見据えてのバックアップ、研修など職員のスキルアップに対する体制などに安心、信頼が得られている。開設以来の入居者の状態変化、全体的に入居者の介護度が高くなりつつあるという現在の状況において統一した支援の再検討、再確認作業を実践しており、また課題としている地域交流も含め、管理者はじめ職員のサービスの質の向上を目指した真摯な取り組みに今後も期待できるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、毎日朝礼の際に唱和し、各々確認しながら日々の実践に生かしております。	入居者への対応の相違、統一した支援がなされていないのではという気づきから、理念の見直しを図ろうと全員で話し合いをしたが、最終的に従来の理念で落ち着き、サービス提供の留意点として、入居者の状態変化に伴いその方にあった支援を探すこと、行事を通して本人が出来ることを活かし「その人らしい生活」を過ごせるような支援に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り回覧板を回したり、催しに参加したり、グループホームの広報誌をお配りしたりと地域の方との交流を行っております。	地域との交流をホーム開設以来、課題とし検討している。町内の行事により積極的に参加したいという希望はあるが、市民大清掃にも入居者の日常生活動作の低下から今年は参加できず、保育園との交流に関しても現時点では進展していない。	入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、入居者の出来ること等残存能力に焦点を当てた取り組みを、事業所及び職員が媒体となって地域と交流されることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の催しの参加や広報誌配布などにより、地域の方への協力や理解をして頂いております。近隣の店舗などでの買い物や散歩など行っており、顔見知りになったり声かけをして頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、地域の方やご家族の方、行政の方などから貴重なご意見を頂き、サービスの向上に努めております。	会議参加メンバーからは地域の情報が得られ、家族代表からもアンケート調査に関する提案など貴重な意見をいただく機会となっている。インフルエンザへの配慮から現在は場所を移しているが、ホーム内リビングで開催の折は入居者にも参加頂いている。行政からは話題提供、助言等多くの協力をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長崎市より年に2回の集団指導が行われ、必ず研修会には参加しています。また、本年度より2回に1回の割合で、行政の方や地域包括支援センターの職員の方に、運営推進会議参加をして頂き、事業所の状況報告や取り組みなどお伝えし助言や指導を頂いております。	市のすこやか支援課主催の研修参加、市内グループホーム連絡協議会を通じて行政との連携、協力がなされている。疑問、相談がある場合は、電話にて担当者へ問い合わせもおこなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルによって職員は熟知しており、また長崎市からの研修の際に高齢者の虐待と合わせて身体拘束の研修に参加をし、理解に努めております。また、緊急で止むを得ない状況時は、必ず説明や証書をとっております。	今年5月に市の研修に参加した。事業所内の看護師が身体拘束委員の中心となって取り組んでいる。夜間徘徊のため現在使用しているセンサーマットについては拘束ではなく安全の為にプザーとして家族に説明し同意を得て取り組まれている。「ちょっと待つて」の言葉などスピーチロックにつながる言葉にも最善の注意を払いながら業務に携わられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、研修参加や事業所内の研修など全員で取り組んでおります。また、外出や外泊の際、前後のご本人様の状況等の観察にも努めており、細心の注意を払っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての研修に参加したり、必要な利用者には説明や社会福祉協議会やリーガルサポートなどの事業所の紹介を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に至る前には、必ず施設の見学、ご利用者やご家族共に納得していただいております。また、解約や改定時も重要事項の変更など文書作成し、併せて説明を行いご理解していただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や訪問の際に、各居室担当者がお声かけを行い、意見が出やすいような工夫や、無記名のアンケート調査などを行い、潜在的ニーズの掘り起こしに努め、業務支援に反映させております。(ご意見箱設置も行っております。)	今年度4月より家族へ個別に近況報告の便りを出している。家族会は敬老会の際に予定していたがインフルエンザを考慮し延期し、1月のぜんざい会時に予定している。満足度調査、家族会とも入居者担当職員が窓口となり、そこから得られた家族からの意見等を検討、分析して改善に繋げるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の定例会議や毎日の朝礼に管理者も参加して、職員の意見や提案が聞ける機会を設けております。また、内容などの報告も代表者に報告し、職員の意見など反映できるようにしております。	今年度は法人内異動、一身上の都合による退職など5人の異動があった。そういった状況変化の中、管理者が兼務である為、現場では主任代行2名の職員を中心に業務が遂行されており、責任の所在が明確でないのは否めないが、事業所としては不足感をもたれていない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回は定期的に職員の意見を聞く場として、ひとりひとり面接を行っております。その中で仕事以外にも目標や希望などを聞き、職員が目指すものの把握に努め、やりがいを感じられるように職場の環境や条件などの整備に努力しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回の職員との面談にて、職員の目指すものへの協力などできる限り支援しております。研修に関しましても、研修の情報すべて職員が閲覧し希望する研修参加が出来るような支援体制をとっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市認知症グループホーム連絡協議会において、他事業所との交流や質の向上を図る為に、交代で参加したり、研修会に参加をして他のグループホームとの交流の機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前よりご本人と関わり、ご本人が望む生活や不安なことなど、安心して生活できるように、意見を傾聴する事に努めております。また、ご家族や関係者の方からも情報を頂き、不安の解消や改善に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族だけの面接やご相談時などに、問題点などお聞きしております。また、ご家族とご本人や関係機関の方との関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接などやご入所される前などの面接の際に、主治医や地域包括支援センターや介護専門員の意見や情報など含めての対応を行っております。必要に応じて他のグループホームや医療施設、介護保険施設等の紹介も行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事、出来ないことの見極めを行い、他の入所者や職員も含め共に生活する者同士、助け合いながら掃除やおやつ作りなど、ご本人様が出来る範囲で協力しながら関係性を保っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係性の中で、今まで認知症の利用者を抱えながら支援をされたご苦労など、職員は理解しております。また、行事への参加や普段のご様子など綴った毎月のお便りなどを渡すことで、絆を深めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けの美容院や整骨院に行くために外出したり、友人や御弟子さんが訪問されたりと面会者の制限を行っていない為に、自由に本人が希望されるように支援しております。	週に1度定期的に家族と外出される方、法事などの行事参加など家族の支援がある。ホームの立地が市街地中心部で交通の便もいいことから、遠方からの友人や家族代わりにお世話をされている古くからの馴染みの知人などの訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、生活の中で利用者の関係性は変化しております。職員は、一人ひとりの情報を共有しカンパニスを繰り返しながら、孤立しないように支援の方法の工夫や席替えなどの環境調整を行い、一人ひとりがより良い関係性を保つことが出来るように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時の状況により、主治医や介護支援専門員、地域包括支援センター、医療機関、福祉施設などに継続した支援が出来るように、情報の提供・協力をしております。また、ご本人やご家族にも契約終了後も相談に応じる旨の説明など致しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の望む生活が提供できるように、入所者に寄り添い、一人ひとりの思いを引き出せるように努力しております。また、明確にご本人の意向があれば、最大限希望がかなうように支援しております。	今期から一部センター方式を入れて、居室担当職員が情報、ニーズの把握に努めており、新たな気づき、情報、変更は随時追加している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通して、ご本人の生活歴や家族環境、継続している事柄など知ることで、グループホームでの生活の差が生じないように支援努力しております。入所当初は、環境の変化による認知症の悪化なども考えられる為に、経過観察などの把握に努め、支援させて頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回面接やアセスメントにおいて情報の収集を図り、ご本人や身近な方たちからの情報を伺いながら生活環境や状態の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援計画など立案する前に、ご本人や家族、関係者などから情報の収集を行い、ご本人が望む生活が送れるような介護支援計画を立て、本人、家族、看護師、その他、主治医や担当職員も含め担当者会議を開催して原案の変更をしながら作成しております。	月に1回モニタリング総括表においての職員のモニタリングが重要となっている。ケアマネジャーは非常勤である。個別記録の様式や記録法を検討し改良されているが、個別記録に介護計画に沿った実践内容の記録がないのは否めない。管理者も介護計画、モニタリング、個別記録について再検討の必要性を認知されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人おひとりの記録は毎日、ケアプランに沿っての実施内容や身体状況の把握、排泄状況、食事摂取状態、看護記録も含め誰でも確認できるように日誌として記載しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	朝礼で、新たなニーズに関しては情報の共有やカンファレンスを通して、評価・検討をしております。また、毎月モニタリングを職員で行うことによって、情報の共有や問題点の確認、実施計画や方向性などの検討をし、柔軟なサービスが提供できるように努力しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方からの情報を踏まえ、職員と利用者で作ったマップ作りなどは、地域資源の把握に重要な意味を持ちました。また、運営推進会議の方の情報などによって、資源の発見にもご協力いただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の継続を行っております。開業医の先生が週に1回訪問診療に来たり、ご家族の方が受診介助して下さったり、月に1回の訪問診療など受けております。また、訪問歯科診療や訪問眼科診療なども可能で、主治医と相談しながら医療を受けております。	ほとんどの入居者が母体法人の病院がかかりつけ医である。他科受診は、往診もあるが通院は基本的に家族支援であり状況に応じて職員による受診支援もおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師により、心身の状況把握に努め、主治医との連携も図っております。介護職も毎日、看護師に報告を行い、異常の早期発見に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時においては、看護師が付き添い医療機関に情報提供を行ったり、入院中も面会に行き状況の把握に努めております。また、退院時においても主治医や病棟スタッフから情報提供や退院後指導など伺い、情報の共有や連携に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化に対する説明を行っておりますが、病名が明確になった場合や病状が悪化した場合や終末期などの場合など各時期に応じて、事業所でできることを説明し、ご本人やご家族の方のご希望によって、対応しております。	病状が末期と診断された入居者の事例では、家族との話し合いの結果、医療を望まれたので病院へ移られることとなった。看取り支援の要望がある場合は、随時状況をみながら家族と話し合い、医療行為が不必要で望まれる場合は医師と相談の上対応していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回は、消防署が開催する救急蘇生法の実践研修の参加や、年に1回の院内の研修に参加しております。また、看護師より利用者の状況に応じて教育を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員で災害時のマップ作りや、避難経路の確認を行い、各階に災害時の避難場所や方法など明確に掲示しております。火災に関しては、防火訓練の徹底や緊急連絡網など、同施設内の他事業所の職員協力も得ております。また、近隣の方や家族会の方の協力も得ております。	訓練時には近隣へはチラシにて告知、案内をおこなっているが、地域の方の訓練参加は今年度はなかった。毎年、課題を挙げて想定訓練をおこない、例えば緊急連絡の際の実際の所要時間を計るなど、結果をふまえ定例会議で検討することもおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間としての尊厳が保たれるように、人格やこれまで生きてきた人生などを尊重し、また個人情報やプライバシーなどを守り、言葉かけや態度に十分気をつけて対応しております。	入居者が集まるリビングでは個人的な内容、お金に関わる話などしないように、職員は配慮している。排泄に関する声かけの配慮に加え、室内のポータブルにはカバーをかけ、トイレ内におかれた排泄チェック表も直接目に触れることがないようにカバーをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定が出来るように、おやつなどについても希望を聞いたり一緒に作ったりしております。また、買い物に出かけて好きなものが購入できたり、朝からの更衣の際に自分で選んだ服を着るようにしたりと意志が表明できるようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとしての基準はありますが、起床時間や就寝時間などにおいてもご本人に合わせた時間設定をしております。また、昼寝を希望したり自室に戻ったり、散歩に出たりと、職員の人員で可能な限り、ご希望が叶うように支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝からの更衣や寝巻きなど、ご本人に選んでもらい身だしなみを整えております。行事時も、洋服を変えたりお化粧をしたりして、おしゃれを楽しみ、また散髪も希望したときに、美容師の方に来てもらったりして、女性としての身だしなみを整えております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食など利用者の好みを聞いたり、おやつを決め買い物に出かけたりと利用者の好みを聞きながら、提供しております。また、誕生日のケーキと一緒に作ったりして、皆で協力してお祝い等しております。	出来る範囲で、おしぼり作りなどの食前の準備を手伝っていただき、食後も食器の片付けなど声かけて関わっていただくようになっている。ミキサー食の方が数名、介助が必要な方もいるが、おやつ作りなどを入居者と共におこない、年末には鏡餅の用意や芋餅など季節を感じる食の楽しさを提供するよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、毎日のカロリー表を基におやつなど考えており、また水分摂取量も一日1300mlを目安に行っています。また、嚥下力が低下している方には、ミキサー食やトロミ食などお一人お一人にあった食事を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて歯磨きや義歯の手入れを利用者自身でまず行って頂いております。誘導が必要な方や嚥下に問題がある方などは、お一人お一人に職員がつき、出来ないところを支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、入所してから排泄のパターンの確認を行い、時間的に誘導しております。また、昼間は紙おむつを廃止し、下着に変更したり、尿とりパットなどを使用したりして工夫しております。	排泄チェック表を用い時間誘導から自発的な排泄へ、下着もリハビリパンツから厚手の下着とパットの併用など自立支援に努めている。夜間はポータブルトイレ使用が多い。自立支援の事例として、どうしてもポータブルトイレが使用できなかった入居者が、散歩中のトイレで和式だといふことに職員が気づき、最適なタイプの用具を入手して状況改善が図れた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつに繊維のある食材を選んだり、主食に寒天を入れたり工夫しております。また、腸の蠕動運動を促進する為にも運動や歩行や散歩など積極的に行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週に2～3回行っております。また、失禁や汚染があった時は、その都度入浴やシャワー浴を行い清潔に努めています。	入浴介助は職員一人ないし二人でおこなっている。女性の入居者が多く、特に新規入居者への介助には、なるべく馴染みの職員があたるよう羞恥心への配慮をしている。見守りで入浴される方の中には、親しい入居者と一緒に入浴されることを好まれることもあり、入浴を楽しむ支援も柔軟におこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の殆どをリビングで過ごされておりますが、居室に戻り休憩を取られたり、リビングのソファや畳で横になったりと、ご希望に応じて休息されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、看護師が管理をしており、新しい処方に関しては、必ず申し送りを行い、全職員が確認しやすいように、食堂やファイル、カードックスなどに写真付の服薬の名前、用途、副作用など明記しており、症状の変化があれば看護師に報告を行い、主治医との相談や指示を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前のアセスメントから生活歴の確認を行い、入所後のご本人やご家族の情報により、嗜好品や楽しみごとなどの発見も含め情報の収集を各部屋担当者が行っております。その内容などによって、現在、生かせる役割や楽しみを支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	長崎市や自治会などの行事の収集を行い、利用者に提案をして予定する場合があります。それ以外に、天候が良い日などは公園の散歩や買い物など、ご本人の希望により外出しています。また、職員同行が困難な場所に関しては、ご家族の方が対応して下さっております。	散策、買い物など周辺環境に恵まれている為、近隣の公園、商業施設へ出かける支援に努めている。昨年の外部評価の家族アンケートの全体集計結果にあった家族からの意見を踏まえ「外出の機会」の頻度、内容について検討し実践に反映されている。冠婚葬祭などの外出は、家族支援だが外出前後の準備やフォローなど協力しておこなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を預かっており、ご本人の希望により好きなものを購入して頂いております。また、おくんちなどの祭りの際は、予算を決めその中の買い物を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の面会が多く、殆どの方が週に1回の面会に来られております。ご本人が電話を希望すれば、直接電話をかけることは出来ますが、現在のところ希望者はおりません。また、年賀状や母の日などのお手紙のやり取りなど、職員が支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、リビングなど、そのときの花を飾り、絵画など飾ったり、自分たちでカレンダーを作り、季節がわかるように工夫しております。トイレは、ドアを赤くして解る様に、浴室は暖簾をかけて人目でわかるようにしております。	既存の建物利用ということで、その建物の構造や立地条件をカバーし、温かな雰囲気のあるホームに近づける努力がなされている。廊下は隣接する建物との間の窓に和紙を建具ではめ込み、季節感が感じられる入居者の作品を程よく飾るなど工夫している。リビング兼食堂の窓からは、地域の中心となる公園が見渡せ季節の移ろいや行事の賑わいが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや3階廊下にソファを置き、気のあったもの同士が憩えるような工夫をしております。また、昼間も居室で、テレビを見たり休んだりできるような支援を行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の入所者にとって、環境の変化が一番悪化の原因になるために、ご入所時は必ず身近なものを持ってきていただいております。家具や写真、思い出の品物など身近なものを出来る限りご家族の方と相談しながら、お部屋の飾りつけなども行っております。	構造上、各居室の広さが違う為に料金の違いがある。スペースや窓の位置などの違いに加え、持ち込みの家具、調度品も多い方もおられ、その人らしさが感じられる個性をもった居室作りの支援がなされている。生活歴に沿った趣味のもの、生業とされていた道具、日常寛ぎの時間に使うお茶の用意など「暮らし」を感じる趣がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階3階のフロアーがあり、殆ど同じ構造にし、また、トイレは、解りやすいようにドアの色を赤にしております。廊下の両側に手摺を設け、転倒防止や歩行訓練などに役に立っております。また、トイレや浴室にも自分で出来ることは行えるように、手摺など設置しております。		